



測量 技術者

技術者

森本 陽輝さん(20)

(株) 共立エンジニア/入社2年目

まだ見ぬ未来への案内人
あらゆる創造の第一歩を記す

測量技術者のキャリアパス

(一例)

1年目

測量補助員

基本的技術の習得

- 測量機器やCADソフトの基本操作を学ぶ

3年目

現場を任される
技術者になる

- 測量データの計算や解析
- CADソフトを使用した図面作成

【取得資格】

- 測量士

5年目

後輩のサポートと
専門的知識を
身に付ける

- 現場作業の流れや機器の操作方法の指導
- 最新技術、専門知識の習得

【取得資格】

- 地理空間情報専門技術認定

7年目

担当技術者

自分が主体となって
実務を進める

- 関係者との協議、現場作業員への指示
- 業務書類、報告書の作成

10年目

業務全般の管理を行う

- 業務のスケジュール管理
- 複数の業務を受け持ち、作業計画の策定や品質管理を行う

【取得資格】

- 補償業務管理士

25年目

主任技術者

多くの経験と
専門的スキルを備えた
技術者になる

- 今までの経験やノウハウを生かし、お客様に技術的な提案を行う



測量 技術者

について聞いてみた

仕事内容は？

現場では、従来の測量機器や、ラジコンボート、ドローンなどの最新機器を用い、陸・海・空のあらゆる視点から、様々な地形を効率的かつ高精度に計測しています。社内では現場で収集したデータを解析し、主に道路や橋などのインフラ整備に欠かせない図面や測量に関する書類を作成しています。

仕事のやりがいは？

まだ経験が浅く、先輩方に支えていただきながら、未知の作業を最後までやり遂げることに一番のやりがいを感じています。測量は私たちの生活に欠かせないインフラの土台となる仕事です。数年後、自分が関わった成果をもとに道路や橋梁が出来る地域社会に貢献している実感が湧き、さらにやりがいを感じられるようになっていきたいと思います。

仕事の大変なところは？

測量業務は現場作業が多く、夏の暑さや冬の寒さ、山間部での作業など、体力を要する大変な側面もあります。しかし近年は、ドローンやレーザースキャナといった最新機器の活用で業務の効率化を進め、過酷な環境下での作業時間を短縮する工夫も行っています。

「測量技術者」のすてきなところ

私の勤務する会社は、県内でいち早くドローン技術を測量に用いるなど、最新技術を積極的に取り入れています。測量課では地上型レーザースキャナやドローン、LiDAR SLAMといった三次元計測が出来る最新機器を使う機会も多く、現場で見た景色がそのままPCの中に出来上がることに面白さを感じています。